

事例4

< 事例概要 >

①30歳代前半/ 初産婦/ 不妊治療（体外受精・胚移植法）。

②妊娠経過特記なし。

③妊娠 40 週に前期破水で入院し、経膣分娩で児娩出。胎盤の一部が癒着しており児娩出から約 20 分後、胎盤用手剥離術で胎盤娩出、出血量約 500 mL。その数分後に血圧低下を認め、昇圧薬を点滴投与。児娩出から約 40 分後、子宮内反症を認め整復、出血量計 1,000 mL以上。児娩出から約 1 時間半後、意識レベル低下し、母体搬送依頼。搬送までの出血量は計 3,000 mL以上。

児娩出から約 2 時間後、搬送先到着。到着直後に赤血球液・新鮮凍結血漿の投与を開始。到着から約 2 時間後に Interventional Radiology（画像下治療）で止血術を実施。その後も持続出血を認めたため、子宮摘出術を決定するが、心停止となり手術は中止。児娩出から約 12 時間後に死亡。

④癒着胎盤。

⑤解剖無、死亡時画像診断（Ai）無。